

速報！！梅毒

梅毒は、梅毒トレポネーマによる性感染症の一種で、粘膜の接触を伴う性行為で感染し、皮膚・粘膜だけでなく全身の臓器が侵される慢性全身性疾患です。梅毒はかつて性感染症の代表格でしたが、ペニシリンの開発で治療可能な病気となりました。日本では1948年から梅毒の発生について報告の制度がありますが、報告数は年間に11,000人が報告された1967年以降、減少傾向となっていました¹⁾。しかし、近年男女ともに報告数が増加しています。また、日本だけでなく、欧米諸国の先進国でも報告数が増えています。この梅毒の感染拡大の背景には、インターネットによる新たなsexual network、コンドームの不使用、オーラルセックス等があるとされています^{2,3)}。

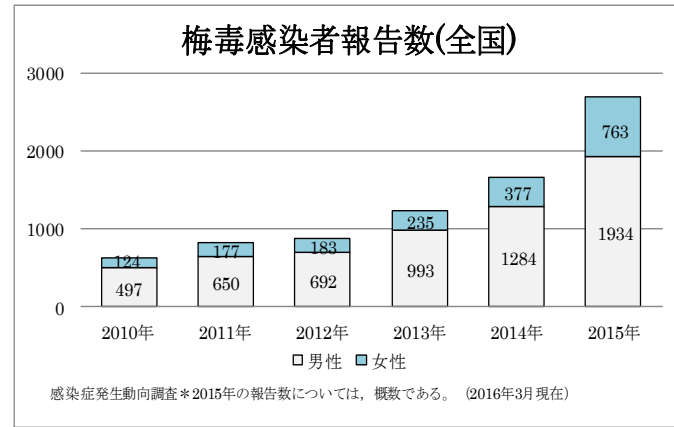


表1 梅毒報告件数の年次推移(北海道感染症情報センターより)

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
北海道	7	21	25	22	58	64	117
札幌	5	14	14	17	27	30	59
小樽	0	0	0	0	0	1	2
函館	1	1	0	0	1	3	6
旭川	0	0	3	1	1	6	25

表2 旭川市保健所への梅毒報告、年代別内訳

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計
2015年	0	1	2	3	0	0	0	6
2016年	5	4	6	3	4	2	1	25

旭川市内での梅毒感染者報告数は、以前までは年間0~3件の報告でしたが、**2015年は6件、2016年は25件と急増**しています。年齢は、20代~40代が中心でしたが、2016年には以前まで発生しなかった**10代の報告数が5件**もありました。また、感染経路は、かつては風俗店の利用等が多い傾向にありましたが、最近は一時的な感染が多くなっており身近なものとなっています。

＜梅毒基礎知識¹⁾＞

症状：感染後3週間位には、感染がおきた部位（主に陰部、口唇部、口腔内、肛門等）に痛みのない小豆大のしこりができたり、股の付け根の部分（鼠径部）に痛みのないリンパ節の腫れがみられることがあります。無治療でも症状は軽快しますが、治療をせずに3か月以上経過すると、病原体が血液によって全身に運ばれ、手のひら、足の裏、体全体にうっすらと赤い発疹が出る事があります。感染後、数年を経過すると、心臓、血管、脳、目などに重い障害を生じ、場合によっては死亡に至ることもあります。

※症状が出ない場合もあるので注意が必要です。

感染経路：主な感染経路は、感染部位と粘膜や皮膚の直接接触です。具体的には**性器と性器、性器と肛門**（アナルセックス）、**性器と口の接触**（オーラルセックス）等が原因となります。

検査：梅毒に感染しているかどうかは医師による診察と、血液検査（抗体検査）で判断します。感染してから十分な期間（約3週間）をおいて、検査結果を確認する必要があります。

予防法：感染部位と粘膜と皮膚が直接接触しないように、コンドームを使用することが勧められます。ただし、コンドームで覆わない部分の皮膚などでも感染がおこる可能性があるため、コンドームを使用しても100%予防できるとは過信せず、皮膚や粘膜に異常があった場合は性的な接触を控え、早めに医療機関を受診して相談しましょう。

梅毒の怖いところ！！

1. 梅毒は発症と潜伏を繰り返す！！症状が消えてしまえば受診の機会が遠のく！！

痛みのない潰瘍やリンパ節腫脹や皮疹を自覚しても「まさか」と思っているうちに症状が消えてしまいます²⁾。治療をしなければ、症状が消えている間にも他人に感染させる恐れがあるだけでなく、さらに梅毒が進行する恐れがあります。旭川市内では、視力の低下で梅毒が見つかり、症状が進行していた事例もありました。

2. オーラルセックスで感染拡大！！⁴⁾

梅毒による口腔病変は感染性が強く、オーラルセックスによって感染が拡大している可能性があります。口腔病変の多くは第Ⅱ期梅毒で発見されることが多く、第Ⅱ期梅毒の30%において、有痛性の口腔内の浅い潰瘍形成がみられるとの報告があります。また、稀ではありますが、口腔咽頭病変が唯一の症状である症例も存在します。

3. 先天梅毒が増加！？

全国の女性の梅毒感染者報告数は2010年には124人でしたが、2015年には約6倍の763人に増加しており、年代は20歳代が多くなっています。妊娠期にある女性の梅毒感染者報告数が増加していることから、今後先天梅毒が増加する可能性があります。

4. HIV感染者が増加！？

梅毒による潰瘍性病変のある場合、HIVの感染確率が高いといわれています²⁾。



平成28年度 思春期性感染症予防講演会 『産婦人科医の立場からみた若者の性感染症の現状と課題』

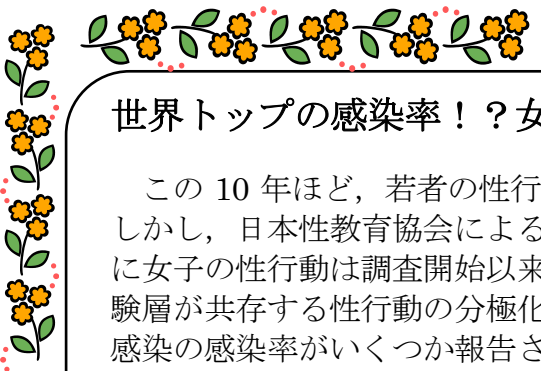
平成28年8月24日(水)に『旭川市障害者福祉センターおびつた』で思春期性感染症予防講演会を開催いたしました。この講演会は、性教育・性感染症予防教育に関わる情報を共有し、関係機関との連携の強化を図ることを目的とし、平成17年度より毎年開催しております。

第12回目を迎えた今回は、旭川赤十字病院 産婦人科部長として活躍されている玉手 健一先生を講師に迎え、「産婦人科医の立場からみた若者の性感染症の現状と課題」とのタイトルで講演を行い、日頃、性教育や性感染症予防教育に携わる27名の教育関係者及び医療従事者等の参加がありました。講演では、クラミジア、梅毒、淋菌、毛じらみ、性器ヘルペス、尖圭コンジローム、月経前症候群、後天性免疫症候群、HPVについて、事例等を交えて症状や治療方法、最近の傾向等を詳しく説明して頂きました。

中でも、「クラミジア感染は約半数が自然治癒する。妊婦健診において正常妊婦の3~5%にクラミジア保有者がみられることから、自覚症状のない感染者はかなりいるということや子宮外妊娠の半分はクラミジア感染症によるものだ」というお話がありました。

また「性器ヘルペス感染症は感染しても発症せず、無症状でウイルスを排出している場合が多く(70~80%)、本人も疾患に気づかないまま次の相手に移してしまう。パートナーが性器ヘルペスを保有していないことが確実な場合以外、予防のためにはコンドームを使用すべきである。ただし病変が広範囲にわたる場合にはコンドームを用いても防ぎきれないものではない」というお話がありました。

参加者からの「高校1年生の娘がいるが、副反応が心配で子宮頸癌ワクチンは受けさせていない。子宮頸癌ワクチンで効果があるHPVの型があると思うが、効果としてはどうか。」との質問には、「予防接種をすることで流行がおさえられたり、死亡率が減少するなど、全体的には有意義であるが副反応がゼロになることはなく、個人の問題として打った方がいいかの判断は難しい。性経験についても年齢的な個人差があるため、個人に合った打ち方があると思う」とのアドバイスがありました。



世界トップの感染率！？女子高生の13.1%が無症候性クラミジアに感染！

この10年ほど、若者の性行動は「草食化」しているとメディアでよく取り上げられています。しかし、日本性教育協会によると、15歳までに男子9%、女子12%が性交を経験しており、とくに女子の性行動は調査開始以来、最も活発であることがわかっています。性行動が活発な層と未経験層が共存する性行動の分極化が起きています⁹⁾。欧米ではこれまでに高校生が無症候クラミジア感染の感染率がいくつか報告されています⁸⁾。例えば米国では3.9%、スウェーデンでは2.1%と報告されていますが、一方日本では、日本人高校生5,598人を対象にした調査によると、無症候クラミジア感染は女子高校生13.1%、男子高校生は6.7%であることが判明しています。年齢別では女子は16歳が17.3%で最も高く、男子は18歳以上が8.5%で最も高くなっています。このことは、高校生における性感染症の予防介入教育を高校2年生や3年生で実施しても時間的に遅く、その前の段階の高校1年生あるいは中学3年生で実施することがより一層効果的であることがわかります。

旭川市保健所では、保健所職員を派遣する「エイズ・性感染症出前講座」を実施しています。性に関する情報が数多く氾濫する中、正しい知識を持ち、自分を大切にする行動を選択できるように、学校での性に関する学習のお手伝いをします。詳細については、旭川市保健所 健康推進課 保健予防係 (0166-25-9848) までお気軽にお問い合わせください。

保健事業のご紹介

詳細については、旭川市保健所 健康推進課 保健予防係まで

エイズ性感染症出前講座

最新の性感染症のデータをそろえ、現状を伝えると共に身近なものと感じられるよう中学、高校、各種専門学校、大学の学生を対象に、エイズ・性感染症予防について、保健所保健師などが出前講座を行います。

エイズ・STD予防に関するDVD・パネル等の貸し出し

HIV・エイズ予防に関するDVD、パネル、健康教育用具の無料貸し出しを行っています。

HIV迅速抗体検査

無料・匿名・結果は即日30分

HIV検査を月に4回実施しています。月1回は休日・夜間にも実施しています。完全予約制で、予約はエイズ専用相談電話で受け付けています。

エイズ専用相談電話

エイズ・性感染症、その他性に関する相談を受け付けています。

TEL: 0166-26-8120
受付時間: 平日 8:45 ~ 17:15

—今号で引用及び参考とした文献・資料等—

- 1) 厚生労働省：梅毒に関するQ&A
- 2) 性の健康（春号）Vol. 15, No.1, 2016年3月20日発行
- 3) 平成28年度HIV/エイズ基礎研修会講義資料：木原 正博 日本のHIVの流行状況
- 4) 病原微生物検出情報 Vol.36, No.2, 2015年2月発行
- 5) 性の健康（冬号）Vol. 15, No. 4, 2016年12月20日発行
- 6) 日本性教育協会 現代性教育研究ジャーナル No.16, 2012年



旭川市キャラクター
ゆきりん

○本誌に関するご意見、ご要望、お問い合わせは、下記連絡先まで。

旭川市保健所 健康推進課 保健予防係 TEL: 0166-25-9848 (直通) FAX: 0166-26-7733



生と性を考えよう！通信

第14号 平成29年3月

旭川市保健所 健康推進課保健予防係

今回のテーマは・・・

性感染症（梅毒）について考えよう だよ。



旭川市シンボルキャラクター

おきぴ



厚生労働省では、近年の梅毒感染者数が若い女性で急増していることから、女性に人気の美少女戦士セーラームーンをモデルに起用したポスターを作成し、若い女性を対象に絞り、早期治療・発見の重要性を呼び掛けています。

梅毒は感染症法により全数把握対象疾患の「5類感染症」に定められており、診断した医師は7日以内に最寄りの保健所に届け出ることが義務付けられています!!

